

飛躍

TOKAI UNIVERSITY TAKANAWADAI JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

HIYAKU

第327号



東海大学附属高輪台高等学校・中等部 学校報

●発行日/2013年12月1日

●発行者/東海大学附属高輪台高等学校・中等部 校長・片桐知己治

「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate your thoughts in your early days

若き日に汝の体躯を養え

Nurture your body in your early days

若き日に汝の智能を磨け

Develop your intellect in your early days

若き日に汝の希望を星につなげ Aim your hopes towards the stars in your early days

TOP*NEWS

第49回建学祭「Colorful」 入場者数4,928名



好天に恵まれにぎわった前庭模擬店



とんとんラグビー (中等部3年)



わんだふる研修旅行 (高校2年)

建学祭開催

Colorful

建学祭実行委員長 鈴木 遥瑛 3年8組 品川区立荏原第六中学校出身

今回の建学祭は2日間とも素晴らしい天候で、たくさんのお客様に来ていただくことができました。今年のクラス企画は、去年には見られない出し物が多く、今までにない盛り上がりでした。テーマである「Colorful」を十分感じることができたと思います。

建学祭が無事成功したのは、生徒だけではなく、先生、保護者の方々の協力があったからだだと思います。ありがとうございました。来年は今年を上回る楽しい建学祭になることを期待しています。

英語スピーチコンテスト

スピーチでアピール

鮫島 正平

1年4組 港区立高松中学校出身

スピーチコンテストの参加の話がきた時、驚きました。自分の関心である、アメリカ南北戦争とリンカーン大統領によるゲティスバーグ演説について語りたという強い気持ちで本番に臨みました。幸い優勝という結果になり、大きな達成感を感じています。これを良い機会として今後も世界情勢への知識を深め、英語での国際コミュニケーション能力を高める努力を続けていこうと思う次第です。この機会ですぐに得たものを将来にさらに生かしたいと思っています。

英語スピーチコンテスト 結果		
優勝	1年4組	鮫島 正平
準優勝	1年9組	越川 雄真
3位	1年3組	久保 俊介



左から サチョ先生、久保君、鮫島君、越川君、スティーブンソン先生

日本語ディベート大会 肯定側優勝

●日本語ディベート大会論題●

「日本の中学高校は完全学校6日制を導入すべきである。是か非か。」

奇異なことに

海老 優之介

2年3組 東海大学付属高輪台高等学校中等部出身

今回の大会の論題は「6日制」でした。実は、夏休み前の朝礼で片桐校長先生から、来年度から本校で6日制が導入されることが全校生徒に発表されました。私はその説明に納得がいかなかったので、校長室の戸を敲き、導入の理由を直接尋ねに行きました。その結果、見事に論破され、このとき6日制という言葉がしっかりと私の中に刻み込まれました。そして奇異なことに、今回の大会で私は6日制を擁護する肯定側になりました。結果は優勝でしたが、その陰にまさか校長先生との激論があったとは、誰も思わなかったでしょう。



左から 粕川君、古澤君、海老君、芦野君、敦賀谷君

英語ディベート大会 肯定側優勝

●英語ディベート大会論題●

“Takanawadai High School should abolish school uniforms”

英語ディベートを終えて

肯定側 潤 政希

3年3組 川崎市立玉川中学校出身

ディベートメンバーが決定し、初顔合わせしたその日から、本番ぎりぎりまで毎日話し合いが続ききました。いかに自分たちのチームが優位に立つことができるか、真剣に作戦を練り続けました。その毎日の積み重ねのお陰で、本番では余裕をもってディベートに臨むことができ、見事優勝することができました。使用言語が英語であったので、自分らが持っている英語力を最大限に引き出し、なおかつその能力を伸ばす良い機会になりました。



後列左から スターツ君、サチョ先生、大谷君
前列左から 潤君、藤澤さん、渡邊君

2013年度 第8回知財グランプリ結果

今年で「知財グランプリ」は8回目となりました。

「知財グランプリ」は、生徒・保護者・教員の代表7名が高校のクラス展示や模擬店について、内容やメニュー・生徒の取り組み・装飾・ポスターの4つの観点から審査を行い、上位3団体とポスター部門1団体を表彰するものです。今年のクラス展示の特色は、ゲームなどの定番に加えて、今までにないオリジナルなメニューやドキュメントビデオの上映といった新たなチャレンジも登場したことです。中等部3年生や高校1、2年生の皆さんは、今回の受賞クラスを参考に、来年の企画に新たなチャレンジをしてみてください。



グランプリ

かすまんちゅ 3年7組 数馬人の沖縄そば

かつおだしと鶏がらでスープを作り、麺は強力粉と卵を混ぜて作ったそうです。スープも麺もすべて手作りにすることでコストを下げ、2日間で600食を完売しました。販売シフトを組んだものの、ずっと働き続けた生徒も多く、沖縄そば以上に熱い生徒たちの情熱が審査員の高評価につながったようです。

準グランプリ

1年9組 (株)1-9青木支社

訪問した企業で学んだことをポスターにまとめて発表することを夏休み前から企画し、準備の日は集合1～2時間前から自主的に作業を始めた生徒もいたそうです。建学祭のテーマである「カラフル」にも配慮し、立体物も含め装飾にも力を入れたそうです。



3年6組 ケバBoooo!!

味にこだわり、都内にあるケバ屋にお願いして美味しい調理法を学び、赤字覚悟で食材にもこだわったそうです。その分販売個数は限られてしまったようです。テントの装飾にも工夫が凝らしてありました。審査員の評価がもっとも高かった項目はチームワークでした。



ポスター部門賞

1年2組 バルーンアート・ 宇宙に関する展示

藤城清治氏の影絵の世界を思わせる切り絵の作品です。十二星座を切り絵で表したのですが、その背景の配色に工夫を凝らしたそうです。メルヘンチックなやさしさと芸術性の高さが審査員の目にとまったようです。

後援会から1,216,592円の収益金を寄贈していただきました!

10月12日(土)・13日(日)、建学祭(文化祭)が行われました。両日も良い天候に恵まれ、4,928名の方が来校されました。後援会の方々による「バザー」や「けやき屋食堂」で、収益金1,216,592円を学校に寄贈していただきました。この収益金は、生徒たちに還元できるものを購入させていただきたいと考えております。

後援会の委員の皆様方には、建学祭の準備や当日の運営まで多大なるご協力をいただき、誠にありがとうございました。また、毎年のごことではありますが、今年も多くのご保護者の方々にご協力をお願いし、バザー用品を拠出していただきました。この場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。



2013年度学校運営方針

学校生活および授業を見ていただくという目的で、一斉公開授業が11月20日(水)・21日(木)に行われました。たくさんの保護者の方々にお越しいただき、忌憚のないご意見をうかがうことができました。また、28日(木)には、生徒による第3回の授業評価アンケートを実施し、後期中間試験までの授業評価を行いました。全教員が教育力向上を目指し、改善すべき点をチェックしています。

全教員の教育力向上

東海大学には、各付属高等学校・中等部に所属する英語・数学・理科の教員に対して、1年間の様々な研修を行う「土曜研修」制度があります。現場に必要な知識、専門性を高める高度な知識など教員力をさらに高めるべく内容で実施されています。

また、年に4回の「校内教員研修」を実施しています。今年度の研修は、「前年度ベストティーチャーの模擬授業」、「東海大学高輪キャンパス説明会」、「食物アレルギー緊急時への対応について」、「救急救命AED講習会」などをテーマにした内容を行っています。直面している問題に対して、正確な情報を共有し合い、問題解決のために取り組みたいと考えています。

教科・学年・分掌間での連携強化

本校では、誰もが自由に授業を参観することができます。中等部のTT(チーム・ティーチング)・各教科が実施する「研究授業」などを利用し、より良き指導方法を求め、教科内だけでなく他教科の教員や外部の方々の視点でのアドバイスをいただいています。また、生活面では担任や学年団のみならず委員会活動や部活動などを通して、「節度ある行動」や「集団行動の重要さ」を指導しています。開かれた学校を目指し、厳しい意見を真摯に受け止めながら、努力を続けています。

2014年度東海大学付属推薦入学合格者決定 351名の生徒が希望の専門分野に進学します

今年、東海大学への推薦入学試験を受験した生徒は351名であり、希望者全員が合格しました。これは、現3年生の約85%にあたりです。進路指導部・高校3学年の先生方が一体となり、きめ細やかな指導を行った結果、上記のように多くの生徒が無事に希望した分野への進学が決定しました。

「一人ひとりの無限の力を引き出す多様な学びが、東海大学にはある」

東海大学は「若者が夢を探し、自らの未来を創造する場である」と学長の高野二郎先生が提唱しています。これは、若者にとって夢を抱き、それに向かって何かを成し遂げ自分の世界ではばたき、幸せな未来を作り出してほしいという思いを東海大生に託したことばです。東海大学は、全国に8キャンパスがあり、18学部77学科・専攻・課程をもつ全国規模の総合大学です。この多様なフィールドには有望な若者が集い、夢を形に変えていくエネルギーがあります。

さて、今年度はすべての学科において、6月上旬に推薦候補者として決定されました。これによって、推薦候補者となった生徒たちは、7月6日、7日に各自が将来通学することになるキャンパスで、保護者同伴による説明会と個別面談を受けることができ、「個別指導課題Ⅰ」も与えられました。そして、10月には大学の先生方による丁寧なレポートの添削指導や、高校への巡回指導などがあり、大学への学びの第一歩が始まっております。

今後は、それぞれの進学先の学科から「個別指導課題Ⅱ」が与えられるとともに、9月末から既にインターネットを利用したe-Learning学習が開始されております。これらは、知的好奇心を高めるとともに、大学入学までにどれだけ基礎学力を充実させておけばよいかの確認になります。さらに、11月14日には「高大連携総合試験」による3年間の学習の確認が実施され、12月には学科別にクラスを編成し直した特別講座も開始します。入学前学習や特別講座に全力で取り組み、残り少ない高校生活を充実したものとしてください。



●推薦状況

東海大学・学部	人数
文学部	44
観光学部	18
政治経済学部	28
経営学部(熊本)	3
法学部	11
教養学部	42
国際文化学部(札幌)	6
理学部	15
情報理工学部	5
情報通信学部	33
工学部	69
海洋学部(清水)	17
農学部(阿蘇)	1
体育学部	29
医学部	5
健康科学部	8
小計	334
東海大学短期大学部	2
東海大学医療技術短期大学	6
ハワイ東海インターナショナルカレッジ	9
小計	17
総合計	351

希望を星につなげ!

学園オリンピック文化部門 優秀賞受賞者からのメッセージ

2013年度東海大学学園オリンピック文化部門の受賞者については前々号でお知らせしたとおりですが、今回はそのうち優秀賞を受賞した3名の諸君から熱いメッセージが届いています。来年度は君も挑戦してみたいはいかがですか。

なお、先月配布済みの「学園オリンピックニュース」第47号では、各部門の実行委員の先生方や代表生徒のインタビューが掲載されていますので、あわせてご覧ください。

考えることの習慣化

国語部門 2年6組 中西 八洋

私は今回初めて学園オリンピックに参加させていただき、それに加えて優秀賞も受賞できて、とてもうれしく思います。しかし、これは生まれ持ったの才能ではなく、少しずつ積み上げた努力の結果なのだと自覚しています。何しろ私は中等部の時、1度だけ国語のテストで24点を取ったことがあるのですから。

今思えば、人生が変わった瞬間なのだとわかりますが、とかくそれはわかりにくいもので、私もその時はわかりませんでした。小さな頃から物語を作ることが好きだった私は、ある日、母親からの勧めで携帯小説を書き始めたのです。それから毎日、どんなにつたない文章でも、必ず1日1,500文字は書くことと決めました。それはしだいに趣味から習慣に変わり、常に何かを考えるということも習慣へと変わりました。努力という努力もしていないのですが、こうやって今までの行為が表彰されるととてもうれしく思います。考えることを習慣とすることによって苦しくもなく、より自分を(国語のテストの点数を)変えることができるのだと実感しました。

東海大学高輪台生へ

数学部門 2年7組 末野 玲雄

私は、今回の学園オリンピック数学部門で優秀賞をいただきました。そして私を嬌恋のきれいに澄んだ空気の中で学習させていただきありがとうございました。自分でもいまだになぜ私が優秀賞をとれたのかわかりません。それどころか、私は学園オリンピックに行こうかどうか悩んでいました。高校生にはよくあることですが、よく悩みます(私が暇だから?)。でも、私は自分にプラスになるということがわかれば積極的に参加します。今回の学園オリンピックも自分に少しでもプラスになるかもしれないと思ったので行きました。そして、決めたからには何事も目標を持っていくとうまくいくというものです。私の今回の目標は「感謝の心を忘れないこと」と、「今年初めて学園オリンピックにきて何もわからない人のフォローをして、みんなの中に入れてもらう」ということです。どんな山でも登らないとその高さや優美さはわかりません。学園オリンピックも行ってみたいとどんなところかわかりません。新しい自分探しに学園オリンピックはどうですか?

優秀賞を受賞して

理科部門 2年9組 芦野 光祐

今回、僕は学園オリンピック理科部門に参加して優秀賞を受賞しました。受賞した時、真っ先に今回同じ理科部門に参加した22人のことを思い出しました。共に学び、遊び、難しい課題にも協力し合い5泊6日を共に過ごした思い出が鮮明に思い出され、思わず目頭が熱くなりました。この優秀賞は、決して自分一人を受賞したものではなく、共に参加した22人と一緒に受賞したのだと自分は思い、それを誇りたいと思います。今回提出した研究は自分が中等部1年生の頃から行ってきたもので、この5年間実験に実験を重ね、自分の全てを注ぎ込んだ研究でした。受賞の喜びとともに今後も研究を続け、来年も学園オリンピックに参加したいと強く感じました。理科部門と聞くと堅いイメージがありますが、実際参加している人はとてもフレンドリーで面白い人ばかりです。皆さんもぜひ学園オリンピックに参加して、とても濃密で充実した5泊6日を過ごしてみてください。きっと忘れられない素晴らしい体験ができると思います。

中等部吹奏楽部 東日本学校吹奏楽大会出場

一丸となって

中等部吹奏楽部 部長 飯塚 真央
3年A組 大田区立蒲田小学校出身

私たち吹奏楽部は、10月12日に富山市芸術文化ホールで行われた東日本学校吹奏楽大会に出場しました。5月からコンクール曲の練習を始め、コンクールに向けて一生懸命練習に励みました。その中で、意見の食い違いからぶつかり合うこともあり、思うようにまとまらず大変な時期もありましたが、8月の予選大会で金賞を受賞することができ、東京都の代表5校にも選抜されました。そして、今回の東日本学校吹奏楽大会では、制限時間7分間の中で、私たちのこれまでやってきたことをお客様や審査員の方々に届けたいという思いで演奏しました。また、3年生にとっては最後のコンクールという緊張の張り詰める舞台上、どのように表現するか、それをどこまで出し切れるのかなどさまざまな苦労もありましたが、それがコンクールの醍醐味なのだと思います。結果は惜しくも銀賞でしたが、それぞれ持っている力を全て出し切ることができ、演奏が終わった時には部員全員が笑顔でいられたのがよかったです。応援ありがとうございました。



中等部1学年だより

10月12・13日に行われた建学祭。中1は「学習発表」を行いました。初めてでわからないことも多い中、学年で力を合わせて乗り切りました。今回は建学祭での生徒の思いを紹介します。

建学祭

松本 萌子

1年A組 大田区立清水窪小学校出身

私の建学祭での一番の思い出は、クラスでの家庭科係と模擬店です。

なぜなら、家庭科係でのシフトで接客が最初はとても難しかったからです。しかし、だんだん慣れてきて、教えたり、やってあげたりなど接することが楽しくなって、とても良い思い出になりました。

模擬店からはとてもおいしそうなおいがたくさんしてきて、全部食べたかったです。金券が足りなくて、すごく悔しかったです。でも、友達からもらったりなどして、少しずつ食べられました。中でも「オムそば」が一番おいしく、また食べたくなりました。

私は、今年初めての建学祭は思う存分楽しんだり、まわったりできなかったのも、来年はいっぱい食べていっぱい遊んで楽しくやりたいです。来年の建学祭がとても楽しみです。

みんなの力

中山 裕也

1年B組 川崎市立平間小学校出身

10月12・13日で建学祭がありました。準備では、たくさんのダンボール、ガムテープ、色紙を使いました。教室の中は最初は、ボロボロで散らかっていました。しかし、だんだんと形ができてきて、コーナーができました。ほとんどのものをダンボールで作り、すごい量でした。

片付けの時は、使ったダンボールを小さくする作業が一番大変でした。片付けは早く終わりました。しかし、B組に来ると、使ったダンボールが山のようにたまっていました。それを1年生全員で破り、小さくしてゴミ袋に入れました。みんなで作ったら、30分くらいで終わりました。大きな段ボールがたくさんあった部屋が、きれいな部屋に戻りました。

みんなで協力して行った建学祭。最後までみんなでできてよかったです。また、一番ダンボールの作業が大変だったけれど、みんなでちぎり、終わらせられたのが一番印象に残りました。



浴衣の着付けを勉強中…



社会のクイズはとてもハイレベルでした!



美術係。スタンドグラスは今回一番人気でした!



小学生への接客対応もバッチリでした

中等部2学年だより

建学祭

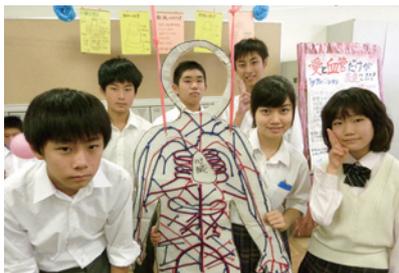
後期の始業式から間もない10月12日(土)と13日(日)の両日、第49回建学祭が開催されました。1年次は各教科の学習成果を発表したこの学年ですが、2年目となる今回は「人体の旅」と題して、人体の各器官について学習・研究した成果を発表しました。クイズや体験コーナーなど工夫を凝らした班も多く、昨年度より一回り大きく成長した生徒たちの姿が印象に残った今年の建学祭でした。

Eyes

高瀬 夏乃

2年A組 豊島区立西巣鴨小学校出身

今年度の建学祭での中等部2学年は、人体の構造について班ごとに調べ、ポスター等を作り、プレゼンテーションを行うというものでした。私たちの班では「眼」について調べました。まず、眼の何について調べるのかを考え、それを具体的に提案していきました。そして、そこで出た2つのアイデアを実行しました。1つは眼の構造や働きについて、もう1つは錯覚についてでした。建学祭の準備期間は2日間ありましたが、その時間は2年生全体の準備に主に使う予定だったので、調べ事は夏休み中から、ポスター制作は準備期間の1週間前から少しずつ始めていました。そしてポスター制作が終わると、私たちの班は眼球の模型、そして錯覚を引き起こす絵を作っていました。眼が新生児の時から成人になるにつれて大きくなるのは、調べて初めて知りました。他の班も準備期間中にすべての準備を終え、当日の発表を無事成功させることができました。この建学祭で初めて知ったことも多く、とても勉強になりました。



血管人間完成!



巨大な舌の模型をつくりました



心臓のことは私たちに何でも聞いて!!



反射神経の装置を試行錯誤して
つくりました



実物大のなが〜い小腸を新聞紙と
ガムテープでつくりました



お客さんにわかりやすく説明します

今年の建学祭

廣瀬 孝輔

2年B組 品川区立日野学園小学校出身

建学祭、何だかんだで忙しかったですが、とても楽しかったです。例えば、私の班の場合、吹奏楽部の人々が全国大会でおらず、男子4人だけが残され、準備が思うように進まなくなったりしましたが、何とか展示品を完成させることができました。

建学祭当日はシフト以外の時間にも手伝いをし、人とたくさん触れ合う機会ができ、人とコミュニケーションをとるという面で経験を積むことができました。説明をし始めると意外と楽しいものでした。これから受験をする小学生だったり、そのお父さん、お母さん、ご兄弟などさまざまな人々とコミュニケーションをとることができました。小さい子たちはとてもかわいかったです。2日目が終わった後に、タピオカドリンクを買って友達とわいわいと建学祭を楽しみました。

来年の建学祭も多くのことにチャレンジし、楽しみたいと思います。3年でも頑張ろう!!

中等部3学年だより

建学祭

生徒たちは中等部最後となる建学祭を終えました。これまでには感じることのなかった感情が込み上げてきたようです。また、建学祭の準備の苦労や困難も良い思い出となったようです。

あなたの笑顔のために、一仕事

鈴木 慶太

3年A組 大田区立池上小学校出身

僕は、建学祭のシフトの時間、いろいろな人の笑顔を見ました。

人を笑顔にすることが、これだけ大変なんだなと思いました。

ですが、笑顔や驚きの顔を見たら、今まで大変だった時間が、無駄じゃないと思えてきました。

アンケートでも、だいたいのお客さんは、「中学3年生でこれができるなんて!」とか「さすがだね!」など書いてくれました。そんなアンケートの言葉を読んだときは、とてもうれしい気持ちになりました。

やっぱり、ここまでできたのは、独りじゃなく、みんなの力があつたからだと思います。

中学最後の建学祭でしたが、最後にみんなの笑顔を見ることができて、とてもよかったと思います。

頑張ってきた建学祭

三浦 智子

3年B組 墨田区立曳舟小学校出身

今回の建学祭は、初めてのリーダーになりました。リーダーは何をやるかを決めたり、皆をまとめたり、予想外に大変で、班の皆に手伝ってもらいっぱなしでした。

ポスターを2人で作ってもらったり、木をダンボールで作ったり、紙粘土で動物など作ったり、「手伝って」っていうことをちゃんとやってくれました。また、真面目で働き者の4、5人を先頭に、皆が真剣に作業をしている姿を見て、ありがたかったです。

本番当日は、それまであまり働いてくれなかった子が、しっかり呼びかけや受付、クイズをやってくれているのを見て、感動しました。

次の日に班の人たちに「今まで頑張ってくれてありがとう」とお礼を言ったら、「リーダーこそお疲れ」「三浦さんの班でよかった」と言ってくれたので、本当にうれしかったし、頑張ってきたなと思いました。

ニュージーランド研修旅行 事前学習発表



高校1学年だより

先日行われた建学祭にそれぞれのクラスが積極的に取り組みました。建学祭クラス委員の生徒にクラス状況を書いてもらいましたので紹介いたします。

建学祭

尾前 隼士

1年1組 千代田区立神田一橋中学校出身

1年生にとって、初めての建学祭が終了しました。1組は写真を使った展示をしよう決めました。最初は何もなかったところから、1つまた1つ新たなアイデアが生まれ1つの形のある展示会になっていきました。もちろん、すべてが上手くできたわけではありません。悪かった点や反省点もいろいろありました。また貴重なご意見もいただきました。これらの経験を生かし、来年に向けて新しいスタートを切りたいです。初めてのことで大変な思いでしたが、全員で知恵を出し合って「展示会」という形のあるものを仕上げることができました。この経験を今後の学校生活にも生かしていきたいと思えます。

楽しい思い出になりました

吉澤 栞

1年2組 東海大学付属高輪台高等学校中等部出身

私たちにとって初めての建学祭が、先日行われました。「てっちゃんの天体室」という展示でしたが、クラスで何をやるかという話し合いから始めて、企画の準備や装飾をああでもない、こうでもない、たくさん考えながら、皆と協力し合って取り組みました。いろいろとハプニングが起きたりしましたが、無事に建学祭を成功させることができ楽しい思い出になり、皆に感謝しています。ありがとうございました。今回の建学祭での経験を生かして、来年はもっと楽しく充実した建学祭で、もっと素晴らしい思い出が作れるようにしたいです。

今年だけの建学祭

山田 勇輔

1年3組 東海大学付属高輪台高等学校中等部出身

私は建学祭に中等部の時から参加していますが、今年が一番印象に残るものになりました。なぜかという中等部ではテーマに沿って発表をしていましたが、高校では自分たちで自由にやりたいことができるからです。今回、3組は「黒板革命」と称してストップモーションを作成しました。しかし限られた時間内で制作するのは難しく、分割した9班の中で完成できたのは5班でした。全ての班が上映できなかったのは残念でしたが、来場者がたくさん来てくださったので満足しています。来年はクラスも変わるので同じメンバーで建学祭を迎えることはできませんが、今回のことを良い思い出として来年の建学祭も全力を尽くそうと思えます。

建学祭

荒井 匠

1年4組 文京区立音羽中学校出身

4組の出し物は建学祭というよりは縁日に近かったような気がします。規制が多くて規模の小さいことしかできなかったのですが、的当てやバターゴルフなどになり、まるで縁日のようなものになってしまいました。しかし、それぞれの出し物の制作過程で普段目にするのできないような、クラスメイトの意外な一面を発見できたり、皆で協力して知恵を出し合ったり、また、自己満足かもしれませんが、当日は来場者の方々に対するサービスの仕方などを学んだり、得られたものはたくさんありました。準備中はあまりうまくいかず、どうなるかと心配しましたが、建学祭が終わってみると満足できるものになっていました。内容は小規模で外見は縁日並みの出し物でしたが、中身のつまった充実した建学祭になり、いろいろなことが経験できました。

建学祭

1年5組 文京区立第六中学校出身 相川 莉佳子
1年5組 板橋区立志村第二中学校出身 桑原 優希

私たちのクラスは「ツイスターゲーム」という出し物をしました。初めての建学祭で決まり事がたくさんあり、条件が多すぎて何をやるのか、なかなか決まりませんでした。しかしこのゲームに決まると、事前準備も建学祭当日も悔いの残らない楽しくて充実したものになりました。私たちクラス委員は事前準備をスムーズに進めるために、役割分担を細かく決め、全員で効率よく建学祭に向けての準備ができるように工夫しました。それにクラスの仲間が集中して自分の分担を果たしてくれたので、初日で建学祭の準備が終了しました。来校者の皆さんにも喜んでいただき、この建学祭を通してクラスの絆がさらに深まりました。

自分たちで創る

佐々木 健成

1年6組 東海大学付属高輪台高等学校中等部出身

今回、建学祭実行委員としての仕事を通して、自分たちが中心になって1つの行事をやり遂げた達成感を実感することができました。クラスでは「捜索中」という出し物を行い、クラスの仲間たちがとても協力的で、準備もスムーズに行うことができました。クラスの1人ひとりが来校者への気配りの意識が高く、しっかりと接してくれたと思います。建学祭当日は大変なこともありましたが、来校者の皆様楽しんでもらいました。来年も私たちが中心になって、1人ひとりの力が十分に発揮される、より良いものにしていけたらよいと思います。

助け・協力があった建学祭

草開 遼太

1年7組 世田谷区立砧南中学校出身

7組は1年生では異例の模擬店部門で「タピオカジュース」の販売を行いました。準備はクラスで各自がさまざまな仕事を分担して一生懸命頑張りました。その結果、クラス全員で個性のある装飾を完成させることができ、とてもうれしかったです。建学祭当日はトラブルがあったりして、先生方に迷惑をかけたこともありましたが、その先生方の助言でその場を収めることができました。また、クラスが一丸となって協力しながら取り組むことでクラスの絆も強くなりました。タピオカジュースの販売がうまくできて、担任の先生にも感謝しています。

建学祭を終えて

長岡 正也

1年8組 北区立滝野川紅葉中学校出身

私たち1年生にとって、初めての建学祭が終わりました。8組はクラス全員で「ソーラン節」を踊りました。本番では3分34秒と短い時間でしたが、そのためにたくさん練習してきました。最初の練習では、誰も踊らず、私自身も恥ずかしさがあった、踊ることができませんでした。しかし、その後の練習からはクラスの皆が意見を出し合って、少しずつ踊る仲間が増えていきました。本番では、前奏で音が切れるハプニングがありましたが、最後まで踊ることができて感動しました。本番だけを見ると短い時間ですが、8組全員と協力してくださった先生方と作り上げた「ソーラン節」は、見事な出来栄だと褒めていただきました。

企業連携

鈴木 雅裕

1年9組 横浜市立南が丘中学校出身

私たちのクラスは、建学祭で「企業連携」の発表をしました。「企業連携」とは、クラスの仲間たちが実際に企業を訪問して、その企業の最先端の技術について学んだことをまとめ、ポスター発表をすることです。各班で作成したポスターをどう配置するのか、どうすれば見学者が楽しんで来てくれるのかなどを考えて準備しました。当日の発表の時は、今までのプレゼンテーションの練習を踏まえ、あまり緊張をすることもなく、自信を持って発表することができました。開学式で、準グランプリで表彰されてとてもうれしかったです。今回、建学祭で行った「企業連携」はSSH成果報告会などで発表するので、この経験を生かしてさらに質の高いプレゼンテーションにしていきたいです。

高校2学年だより

2学年の建学祭はこれ! ①

2013年度第49回建学祭も盛況のうちに終了しました。2学年での取り組みを、今号と次号(1月号)の2回に分けて各クラスの代表に振り返ってもらいます。

1組「1くみfilm」



桑岡 城

中央区立日本橋中学校出身

私たちはクラス映画を制作しました。撮影は約1か月前から始まり、皆の協力もありスムーズにいきました。お客様もたくさんいらしてくれて大成功でした。

2組「TBTV (タバタTV)」



加藤 萌

川崎市立今井中学校出身

私たち2組はバカッコイイ映像を放映しました。時間がないなか、みんな協力して映像を撮り、とても苦労しましたが、クラスが1つにまとまりました。

3組「JOYFULセクターーナツ」



西川 瑛恵

横浜市立市場中学校出身

建学祭で皆が協力したことで、クラス全体の関係がすごく深まりました。また、ふだんは見ることができない友達の良い部分が見られたこともよかったです。

4組「愛full4₇」



三浦 璃紗

東海大学付属高輪台高等学校中等部出身

準備が間に合うのか心配でしたが、当日はお客さんも大勢来て、楽しいという声も聞けたのでうれしかったです。クラスの仲も良くなれたと思います。

5組「占いへの道フルパワーで探し出せ!」



阿部 聡

東海大学付属高輪台高等学校中等部出身

5組は、人探しと占いをしました。準備期間も、建学祭当日も全員が協力的で、多くの方々に来ていただくことができました。来年も全員で良いものを作ります。

6組「Enjoyワッショイパワフル幹人」



坂口 亮太

川崎市立宮内中学校出身

6組では、縁日をやりました。たくさんのお客さんや子どもたちが来てくれて、帰り際に「楽しかったよ」と言ってくれたことがうれしかったです。



高校3学年だより

第49回建学祭が盛況のうちに終了しました。3年生は全クラス前庭で模擬店を出店しました。来場された方に楽しんでもらおうと、どのクラスも味と装飾に工夫を凝らし、素晴らしい模擬店となりました。各クラスの代表生徒に感想を寄せてもらいました。

1組 青沼 哲

足立区立東綾瀬中学校出身

今回の建学祭は、高校生活最後の建学祭ということもあり、みんな気合の入りが違いました。当日も全員が各自の役割をしっかり果たして、オムそばを大成功させると同時に、1組の絆を再確認することができました。次は最後のスポーツ大会です。1組全員の力を合わせて、三連覇で締めくくりたいです。

2組 永井 孝樹

世田谷区立緑丘中学校出身

今年の建学祭は前日の準備や商品の調達など大変だった部分はありましたが、昨年の建学祭で失敗をしてしまったので、念入りの準備をして臨みました。大変だった部分はありましたが結果的には完売をすることができ、クラスの団結力も高まりました。高校生活最後の建学祭が一番の思い出になりました。

3組 佐藤 真帆

台東区立上野中学校出身

今年の建学祭では、準備期間の装飾、看板作りや買い出し、当日2日間の調理販売、片付けまでたくさんのクラスメートたちが積極的に協力してくれて、スムーズに作業を終えることができました。金券も売り切れ、大勢のお客様においしいと言われて、本当によかったです。高校生活最後の建学祭が一番楽しく思い出に残るものとなりました。

4組 中島 勲己

大田区立大森第十中学校出身

建学祭の直前まで話がうまくまとまりませんでしたが、準備期間からみんな協力するようになり、建学祭当日にはお好み焼きを売りながら新たなアイデアを出し合い、来てくださった方々に非常に喜んでもらうことができました。4組らしく楽しい建学祭になったので、最高の思い出になりました。

5組 島田 檀

目黒区立東山中学校出身

建学祭が無事終わりました。準備期間から本番、後片付けまで3年5組は全員で協力し合い、作業に取り組むことができました。そして私たちの企画「フレンチトースト」は、最後の建学祭で最高のものとなり、クラスの団結力もますます強まりました。3年間で一番楽しい思い出に残る建学祭でした。

6組 椎名 卓巳

東海大学付属高輪台高等学校中等部出身

私は、この最後の建学祭で建学祭委員として活動しました。いろいろと大変なこともありましたが、その問題に対応し、どのようにすれば上手くいくのかを考え、行動することができました。ただ楽しむための建学祭が視点を変えることで、多くを学ぶことができるものになり、とてもよかったです。

7組 井上 穂乃佳

東海大学付属高輪台高等学校中等部出身

今年の建学祭は、私が今まで経験した中で最も大変でした。準備期間も当日もハプニングの連続でした。麺もスープも手作りという大掛かりな作業をしたため、想定外のこともたくさん起こりました。それでも7組がグランプリを獲れたのは、私たちを助けてくれた1組、8組のみんなをはじめとした他クラスのみんな、相談に乗ってくれた先生方、そして温かく見守ってくれた私たちの両親のおかげだと思います。関わってくれたすべての人たちに感謝します。ありがとうございました。

8組 梅林 将也

川崎市立中原中学校出身

高校最後の建学祭というのに、クラス代表である自分は最初いまいと気持ちが悪くありませんでした。それでも成功したのは8組独特の雰囲気と団結力のおかげです。つまり「8組らしさ」です。残り少ない高校生活もこの「8組らしさ」を大切にしたいと感じられる行事となりました。

9組 嶋田 将也

東海大学付属高輪台高等学校中等部出身

最後の建学祭だからという理由で建学祭クラス委員になりました。忙しいだろうと予想はしていましたが、予想以上に忙しく、ハプニングも多々ありましたが、無事に建学祭を終えることができました。今思い返すと、忙しく感じた時も、良い思い出になりました。



3年1組

3年4組



3年7組



3年8組

SSH活動報告

1年SSHクラスは建学祭にて「(株)1-9 青木支社」と題し、企業連携を行いました。夏休み等を利用して企業へ訪問し、その企業がもつ技術力に触れることができました。学校での学習が社会の中でどのように生かされているか知ることができ、また、建学祭を通してその企業の取り組みを多くの人に伝えることができました。

花王株式会社

布施 拓己

1年9組 横浜市立潮田中学校出身

僕たちは「企業連携」という形で花王株式会社さんに訪問させていただき、主に花王の商品に使われている界面活性剤についてのお話などを聞かせていただきました。界面活性剤とは、簡単に言えば水にも油にもなじんで汚れが取りやすくなるような物質です。これは花王の製品、それも洗剤だけでなく化粧品や洗顔料にも効果的なので、ありとあらゆる製品に使われています。他にも花王では、お客さんからの意見を即座に取り入れて、新しく商品を作ることを意識して物づくりに励んでいるとお話を聞き、常に客のことを考えて物づくりをするという姿勢が、ヒット商品を生むための秘訣なんだと学ぶことができました。最後に企業連携にはポスター発表がありました。みんなで花王で聞いた話をまとめて図に起こし、ポスターを完成させることができました。このような貴重な体験はあまりないので自分の力にしていきたいと思います。



技術者の熱意に感動

川崎重工

越川 雄真

1年9組 川崎市立平間中学校出身

私たちの班は、今回川崎重工の東京本社に訪問させていただきました。川崎重工は国内で18か所、海外で23か所の工場拠点を持つ大企業です。川崎重工の製品は私たちの身の回りにたくさん使われています。例えば、通学に使っている電車や、バイク、LNG(天然ガス)を運ぶための船舶、救急病院などで使われるドクターヘリ、旅行などで使う航空機などを作っています。今回見学をさせてもらって、現在進行形のプロジェクトのCO₂フリー水素チェーンコンセプトというものを主にいろいろ説明してもらいました。CO₂フリー水素チェーンコンセプトというのは、褐炭などのあまり使われていない資源を使って水素というエネルギーを作り出すというコンセプトです。これを使えば資源を持たない日本でもエネルギー問題で悩まされることが少なくなると言っていました。今回の見学を通して、今学んでいることは決して無駄ではなく、使う時がいずれ来るということがわかりました。



熱心にプレゼンテーション

橋本鋳造所

菅野 大輔

1年9組 東海大学付属高輪台高等学校中等部出身

私たちの班は、橋本鋳造所に協力をいただき、訪問しました。橋本鋳造所は鋳物を作っている企業で、代表的な製品としては、マンホールの蓋や街路灯、身近なものとしては鉄瓶や風鈴などが作られています。私たちがここを訪ねた理由は、鋳造とはどのようなものかと思ったからです。まず鋳物というものは溶けた金属を鋳造用の型に流し込み、それを冷やしたもののことです。ここで鋳物を作る工程としては、作りたい形の型を作るところから始まります。その型を土に埋め、固まったら土から取り出します。その後できた型をもとに土の型を作り、土の型に溶けた金属を流し込みます。それを冷やして固めて、型から取り出し、問題がないか検査して、なければ完成です。

作り方を聞いて一つのものを作るためにたくさんの工程があるのだと思い驚きました。鋳造の知識がなかったため、興味深かったです。工場での仕事なので力仕事に関わるような人が多いと思ったけれど、計算することが多くらしく、理系の人が多いと聞いて驚きました。



質問にもしっかり答えます

TOKAI キャンパスメッセージ

電気電子技術で明るい未来を

東海大学工学部電気電子工学科 学科主任 教授 庄 善之

「電気をつける」という言葉を知っていますか？ 高校生の皆さんは、あまり使わない言葉だと思います。皆さんのお父さん、お母さん、またはお爺ちゃん、お婆ちゃんにとって、この言葉は部屋の電灯（照明）をつけるということです。少し前までは、電気は主に暗い部屋を明るくするために使われていました。

現在、電気は私たちの暮らしを豊かで、快適にするためにいろいろなことに使われています。家庭で電気は、部屋の照明はもちろん、冷蔵庫やエアコン、テレビなどに用いられています。現在の生活では電気が必要不可欠になっています。自動車はこれまでエンジンで走行していました。それが最近、エンジンと電気（モータ）を組み合わせたハイブリットカーが多く用いられています。電気技術を用いることで、自

動車の燃費を下げ、環境にやさしい自動車を実現されました。今後は、電気自動車が一般的に用いられ、環境負荷が低く、快適な移動手段となることでしょう。

以上は、皆さんの生活が、電気電子技術によって、今後ますます快適、便利になることの一例です。でも、このような未来は誰が実現するのでしょうか？

私たち電気電子工学科では、電気電子技術を学生たちに教えています。それは、私たちの学科を卒業した人が、電気電子技術を用いて社会に便利な製品、サービスを提供してほしいと考えているからです。私たちは、皆さんも私たちの学科で電気電子技術を学び、その技術を用いて明るい未来を作る人になってほしいと願っています。



実験で用いられている電気自動車

太陽電池の研究と自分の目標

東海大学工学部電気電子工学科4年（高輪台高校2010年3月卒業） 澤 祐基

東日本大震災後、電力の問題は大きく取り上げられ、そのあり方が社会に問われています。私は電気を学ぶ学生として、震災後の電力事情の変化に大きな衝撃を受けました。そこで私はどこにいても電力を生み出すことができる太陽電池に興味をもちました。

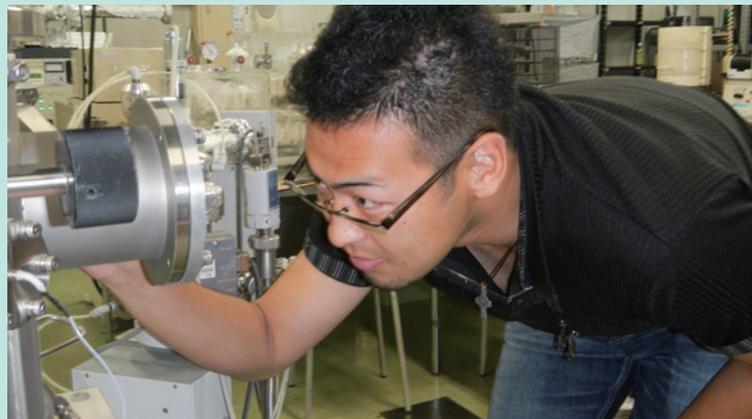
現在私は、卒業研究として太陽電池の研究に取り組んでいます。私の研究では、作製コストを下げるため、髪の毛より薄い膜でできた太陽電池を開発することを目標にし、日夜研究に明け暮れています。研究は地道な作業が大半で、大きな成果を上げることが困難です。それゆえに、小さな成果でも得られたときには、とても大きな喜びを感じます。

研究生活を通して最も大切だと感じるのは、報告・連絡・相談とコミュニケーションです。研究は1人ではできま

せん。研究室の友人や、いろいろな分野で活躍する人たちと交流を深めることで、自分自身が得られるものはたくさんあります。

大学は自分の可能性を広げる場です。自分が目標とする方々との交流は、自分の目標を明確にし、とても良い刺

激になります。大学生活では、目標に向けて最善を尽くし、努力を怠らないことが大切です。私は、これらの心構えを忘れずに、高いレベルの知識と技術をもち、確かな知識を基に自分の意見を発信できる人物になりたいと考えています。



真空装置を用いて太陽電池材料の作製中

お知らせ

高校3年生特別講座開始

自ら学び、探求する姿勢を大切に!!

期間

12月10日(火)～1月31日(金)

目的

大学の授業に備え、高校時代に身につけておかなければならない知識などを、これまでの授業とは別の角度から学ぶ。

大学では、1人ひとりの学ぼうとする姿勢が高校以上に大切です。学習に対するしっかりとした姿勢を身につけましょう。

行事予定

December 12月

January 1月

- 3日(火) 卒業試験(高3～12/6)
後期中間試験(中等部～12/4、高校～12/6)
- 5日(木) 中等部スポーツ大会(午前:アリーナ) 午後:キャリア教育
- 6日(金) 中等部校外活動(中1:落語・中2:科学技術館・中3:文楽)
- 7日(土) 中等部3年保護者会
- 8日(日) 高校受験生・保護者学校説明見学会(5回目)
- 9日(月) 朝礼[正制服着用] 45分短縮授業
答案返却日(高3)
- 10日(火) 特別講座開始(高3～1/31)
校医相談日
- 12日(木) 中等部三者面談開始(～12/24)
- 14日(土) スーパーサイエンス教室
- 17日(火) 振替休日(12/15分)
- 21日(土) 高校3年スポーツ大会(アリーナ)
- 23日(月) 天皇誕生日:SSH東京都指定校合同発表会
- 24日(火) 午前中授業
冬期休暇前諸注意:大掃除
- 25日(水) 冬期講習(～27日)

- 6日(月) 新春懇親会
- 7日(火) 朝礼[正制服着用] 45分短縮授業
- 9日(木) 2年生学年集会(中等部・高校)
- 11日(土) 東海大学進学相談会(高校2年)
- 12日(日) 中等部受験生・保護者学校説明見学会(5回目)
- 13日(月) 成人の日
- 14日(火) 月曜日の授業
- 15日(水) 高校入試推薦願書受付 専門医によるカウンセリング
- 18日(土) 高校1年スポーツ大会(アリーナ) 数学検定(希望者)
- 20日(月) 中等部入試願書受付、第1回(～1/31)・第2回(～2/2)
- 21日(火) 校医相談日
- 22日(水) 高校推薦入試 生徒自宅学習日
中等部1年Tokyo Sightseeing Tour
- 23日(木) 高校推薦入試可否発表 生徒による授業評価アンケート
- 24日(金) 漢字検定(希望者)
- 25日(土) 高校2年スポーツ大会(アリーナ)
中等部1・2年英語検定(中3・高校希望者)
- 29日(水) 中等部3年卒業試験(～31日)
- 31日(金) 高校3年特別講座終了

生徒会演説会



編集後記

2013年も最後の月を迎えた。「師走」の語源については諸説あるが、その1つが「日ごろ落ちている学校の先生も忙しく走りまわる月だから」というものである。しかし、この説には異論を挟みたい。今どきの先生は年中走りまわっており、その意味では毎日が「師走」状態だからである。事務処理はコンピュータ化され成績算出で電卓を叩く必要はなくなったし、プリントだって原稿を入れれば数分で出来上がる。それにもかかわらず「時間が足りない」と嘆く先生は多い。何が「師」を忙しくさせているのか。(き)

東海大学付属高輪台高等学校・中等部

TEL.03(3448)4011 FAX.03(3448)4020 ホームページ: <http://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>